

大野郡五箇村化石採集記

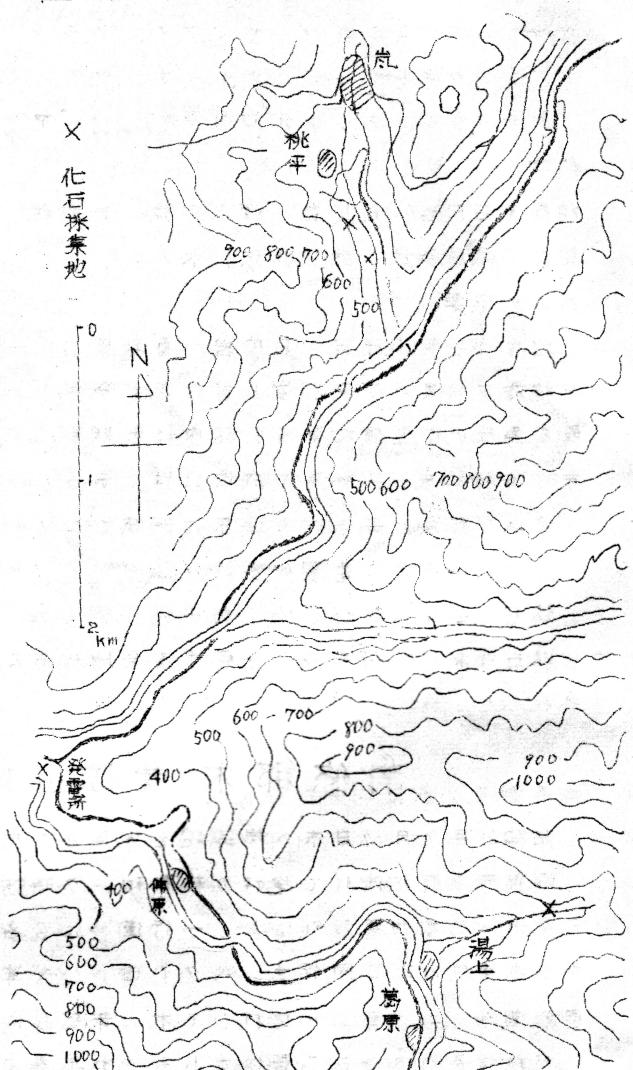
大野郡石徹白村の採集会を終えた後、荒川は、八月三日午前九時石徹白を後にして石徹白川に沿つて山を下り、朝日を過ぎて勝原口で植物班と別れる。新に清水君を加え一行四人は湯ヶ湯行バスに乗車、清流岩をかむ九頭龍峠を下に見て嵐に向く。何回来て見ても雄大な景色である。圓を重ねる毎にその美觀と自然の雄大さは加わつて實に快良い。

午後三時嵐口で下車、ツリフネソウ、シデシヤジン、ソバナ、イワタバコ等の咲き乱れに林道を登る事約二丁、はかばも千葉大学の前田四郎先生に路上でばつたり出会い、先生より北谷村五箇村附近の化石採集について注意を賜り、一向勇気百倍嵐に向く。尚先生は千葉大学の生徒教名と共に五箇村の各谷間を跋渉して研究を続けられるそうである。

嵐に着いて学校の分教場を借り、一同手わけして夕食の仕度や設営の準備、採集した植物の整理等に大忙、暗い電燈の許に過ぎし採集の恩出話や明日の計画を語り樂しい夢路に入る。

八月四日、昨日に引きかえ朝よりどんより曇つて今にも雨になりそうである。午前七時学校を出て採集地に向く。現場に着く頃雨がボツボツ落ち出したが、大降りでなくて採集は出来た。

手取統の砂岩、頁岩の層が露出して居る岩石は風化して採集は容易である



が、保存不良で立派なものには、出来ない。然し一行元気一ぱい沢山標集整理し、リュックにどつこりつめて昨夜と同じく分校に一泊する。

八月五日、二夜厄介に戻った分校を出て湯上に向ふ。採集物をつめたりュックは大満員で肩にぬり込み、肩の痛みと汗で一行やつとの思いで嵐口迄不山する。バスでギー発電所迄行き、丸頭龍嶽を重いリュックを背にして渡り、発電所の小屋にリュックを預け、軽装で佛ヶ原の景勝をめでながら湯上に向ふ。湯上の部落入口の谷川を、前田先生より教えられた採集地めがけて渓流をさか登る。然し夏草と谷川や断崖にへば下られてどうしても進めず、今一度国道迄引返し再び山道を登る。然し中々目ざす化石は発見されず、漸く附近の畑に仕事をして居た部落の人の案内で軋石を発見、更に探対して頁岩の大きい露頭を発見する事が出来た。然しこれは嵐と違つて岩石の風化面が少く、我々の採集用具では立たず、期待した化石の採集は充分出来なかつたのは残念であるが、四時三十分の省営バスで帰郷の途についた。

○採集物 しじみの大型のもの(嵐谷)、小型のもの(嵐谷)、かきの類(湯上谷)

○前田先生のお話 大野郡の野向村牛ヶ谷、北谷の川合、北六呂師、更に東にのびて五箇村嵐、湯上には中世ジユラの層があり、上部に小和清水産と同じような砂岩層を乗せて居る。この層に含まれる化石は墨色の頁岩中に保存され、嵐、湯上では動物化石、牛ヶ谷、野向では植物化石を産する。特に嵐の化石は西谷村中島産のしじみ、かきの化石と同じ感じを持ち、下穴町村の伊月に通じるものではなかろうとの事であつた。(荒川九兵衛記)

大野郡六呂師原 昆虫採集記

月 日 昭和28年8月10日

指導者 福井大学 堀口龜次郎先生

参加者 博物館関係者 5名

小学校教諭 1名

福井大学生 6名

中学生 3名

小学生 8名

日 程 6時52分 福井発

8時-12時 登山路の採集

12時-14時 高原の採集、ハツヂヨウトンボの棲息地、並に生態

観察と採集